

東京・尾張藩上屋敷跡遺跡

おわりはんかみやしき

所在地 東京都新宿区市谷本村町

2 調査期間 一九九二年（平4）六月～一月

3 発掘機関 (財)東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター

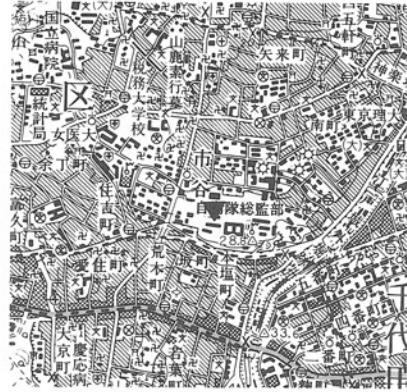
4 調査担当者 並木 仁・竹田 均

5 遺跡の種類 大名屋敷跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地点は新宿区市谷本村町の市ヶ谷駐屯地内に位置し、尾張藩上屋敷跡遺跡の一角を成す（第四—四地点）。調査は防衛庁の移転計画事業に伴う事前調査の一環として行なわれたもので、遺跡全体としての調査は現在も継続している。



（東京西北部）

本地点で確認された遺構は、尾張藩が西側添地を幕府から拝領する明和五年（一七六八）以前とそれ以後とに大きく分かれるが、

木簡が出土したのは、調査地点東側で検出された一八世紀末から一九世紀前半代の大型の土坑である。全体の形態は不明だが、検出面からの深さ約三・二mを測る。遺構覆土はその状態から人為的な廃棄により形成され、そのような覆土の上、中、下位それぞれから集中的に、大量の遺物が出土している。最下位では、湧水による水の作用が加わり、木製品や自然遺物が保存状態もよく残されていた。

木簡は二点で、いずれも土坑底面付近からの出土である。

8 木簡の釁文・内容

(1) 陸七月

(2) 「尾州 山田 □平治」
〔佐カ〕

(71)×23×10 081

365×50×8 011



(1) S=1/2



(2) S=1/4

(1)は上下を欠失しており、残存している文字だけではその意は不明である。(2)は完形で、地名と人名が記されたものと考えられ、荷札として使用されたものであろう。但し、「山田佐平治」という人名については、現存している尾張藩関係の文献に該当者は見当たらない。

9 関係文献

(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター『尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅱ 一九九一(平成四)年度』(一九九四年)

(並木 仁)

木簡研究第一五号

卷頭言

早川 庄八

一九九二年出土の木簡

概要 平城京跡 平城京左京三条三坊三坪 平城京右京三条二坊三坪 藤原宮跡 藤原京右京五条四坊 丹切遺跡 長岡京跡(1) 長岡

京跡(2) 中海道遺跡 勝龍寺遺跡 平安京跡・旧二条城跡 鳥羽離

宮跡 大坂城跡 大坂城下町跡 喜連東遺跡 平野環濠都市遺跡

植附遺跡 穂狭遺跡(内田地区) 鴨田遺跡 六大B遺跡 安養寺

跡 宮の西遺跡 赤堀城跡 梶子遺跡 城之内遺跡 二本柳遺跡

二之宮宮東遺跡 安養寺森西遺跡 世良田諏訪下遺跡 小茶円遺跡

番匠地遺跡 瑞巖寺境内遺跡 八幡林遺跡 綾ノ前遺跡 馬場天神

腰遺跡 乾遺跡 宮永ほじ川遺跡 北高木遺跡 山崎遺跡 中島田

遺跡 久米窪田森元遺跡 観世音寺跡(南門跡) 脇道遺跡 城原

三本谷南遺跡 妻北小学校敷地内遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一五)

一乘谷朝倉氏遺跡(第九次) 長岡宮跡(宮第三・三三三次)

草戸千軒町遺跡(第五・六・八次)

国・郡の行政と木簡

「国府跡」出土木簡の検討を中心として

京都府相楽郡木津町鹿背山郷藏の俵上札

加藤 友康
田中淳一郎

頒価 四五〇〇円 送料六〇〇円

彙報